

2025 年度 児童虐待防止協会第 24 回総会記念フォーラムアンケート（6/22）

20 歳代/保育士/大阪府

意見聴取について詳しく知らなかったので、意見表明支援事業（アドボカシー活動）について学べて良かったです。子どもの意見を聞く上で、一人一人話したい環境が違うこと、面談中の雰囲気や進め方によって話が出来ることができないかが変わってくるというのをアンケート結果を見て知り、自分自身に置き換えても苦手な雰囲気があるのと同じで、配慮をしなくてはいけないんだなと感じました。普段現場で働いているときから、一つ一つに対して子どもの“声”にしっかり耳を傾け、先走って大人が代弁するばかりではなく、待つことも大切なんだなと学びました。

60 歳以上/児童福祉施設/奈良県

改めてアドボカシーの概要と重要性を知ることができました。

これからの児童福祉で重要な内容と思っています。一方で、教育（日本の今の）現場では、子の視点が弱いと感じており、福祉と教育の連携が難しいです。

40 歳代/施設職員/大阪府

子どもの意見表明について、とても分かりやすかったです。よくある「子どもの権利がー」一辺倒の話ではなく、職員側の苦悩や不安を土台に据えてアドボケイトの重要さをお話していただいたので、安心して聞くことができました。レジュメにあった「子どもと職員の関係性」や「職員がお互いに発言できる」という視点は、日頃大切さにしている部分ですが、それがアドボカシーにつながるということに驚きました。「信頼関係の構築」というきれいな言葉で支援計画を書きがちですが、セルフアドボケイト、フォーマルアドボケイトにつながっていくんだという自覚をもって向き合っていきたいと思いました。

50 歳代/児童福祉司/兵庫県

子どもの意見を尊重することの大切さを再認識した。

50 歳代/保健師/大阪府

子どもの権利擁護のイメージがよくわからなかったが、具体的に良く分かった。子供が意見表明し、大人から受け入れ認められる経験の積み重ねが、子どものこころのケアにもつながる取り組みになっている。大阪ではどんな風実践されているのかと思った。

40 歳代/保育士/大阪府

現在、子どもアドボカシー講座（基礎）を受講中です。第一回目が相澤先生のお話でしたので、直接お話を聞くことができて良かったです。引き続き勉強してアドボケイトを目指したいと思います。

先生の遊びや体験の機会を保障することが子どもを大切にすることであるという旨の言葉が響きました。居場所・環境・システムを整えるのは大人の責務です。

家族サポート、子ども家庭センターが包括的支援を担う、大切です。

60 歳以上/SSW/大阪府

私は SSW として不登校やヤングケアラーの児童生徒と面談したりします。

その中でお子さんが発達や場面緘黙等で意見表明の苦手なケースに対面することがあります。

本日の講演の中で基本姿勢を学びましたが、実際に「振り返り」が大事とされていました。それも対象児にも…。振り返りながら力量を高めていきたいと思いました。ありがとうございました。

50 歳代/施設職員/大阪府

初めて参加させていただき大変勉強になりました。また、参加させていただきたいです。

アドボケイト、初めて知りよかったです。

60 歳以上/保育士受験中/大阪府

保育士を目指しており、本日の内容を話していきます。

60 歳以上/主婦/大阪府

専門的なお話でアドボカシーという言葉を知るのも初めてでした。とても難しいと思うところもありましたが、子どもの話を聞く大切さがわかりました。貴重な体験ができました。機会があればまた参加したいと思いました。

今年度からいよいよ私が勤める施設でもアドボケイト事業が始まるということで迎え入れる職員としての理解、意識をどの様に持つべきか大変勉強になりました。

日々子どもとの関わりの中でどんなに意識してもとりこぼしてしまっている部分を補完的にサポートしていただく意識、また、改めて職員や施設自体の権利擁護のあり方を見つめ直し、襟を正す機会としてとても有意義なものであるということがよくわかったので、施設に持ち帰り、フィードバックしたいと思います。

60 歳以上/大学教職員/大阪府

武蔵野学院の収容の男子生徒が「大人が心の弱さを出してくれれば僕らヤンキーたちが、心の弱さを出して甘えられるのに」の件。援助要請は支援者がしてもいいのだと気付いたのは大きかったです

40 歳代/保護者/大阪府

我が子が不登校になったことをきっかけに「子どもの声を聴く」とはどういうことか？という分野にとっても関心を持つようになりました。アドボカシー（特にこどもアドボケイト）について、とても理解を深めることができました。主には児童福祉、保護が必要な子どもへの対応、そういった現場を前提としたお話でしたが、家庭や学校においても子どもアドボカシーや子供の意見表明の概念は必要不可欠だなと思いました。相澤先生がお話されていた「反抗期（大人目線）」ではなく「自己主張期（子ども目線）」という捉え方が社会全体に広がって欲しいなと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

40 歳代/施設職員/大阪府

子どものアドボカシー事業が施設でも始まります。子どもの声、思い、意見を聴く人、場所が一つでも増えるのは子どもにとってとてもいいことだと思います。ただ子どもたちにとって生活の場である所にアドボケイターが入って来て関係を構築していくまでに時間もかかるのではないかと、子どもたちがどのような反応を示すのか等多少の不安もありますが子どもにとってプラスになることが理解でき、前向きな気持ちで取り組めたら…と思います。

30 歳代/心理士/大阪府

府内の子ども家庭センターで心理職をしておりますが、心理職としても非常に勉強になる内容でした。

40 歳代/施設職員/大阪府

私の勤めている児童養護施設でもアドボケイトの方がいられています。説明を受けた時は「施設が悪く言われる」などのマイナスな感情がすごくありましたが、今は子どもが意見を聞いてもらえる場としていい方向に進んでいると思っています。

40 歳代/大阪府

子どものこころの声をきくことで、一人一人を大切にしていけることができると感じた。

20 歳代/保育士/大阪府

障がい児入所施設で働いているのですが、子どもの理解の難しさ、集団生活の中でどこまで叶えてあげられるか、他の人にも人権があるというところと一緒に伝えていながら試行錯誤して子どもたちの為に支援し続けられたらなあと思いました。

50 歳代/教職員/大阪府

初歩的で申し訳ないが、“アドボカシー”という言葉、意味（意義）役割。その存在が新たにできることでより子どもの声を大事、大切に聞くことが明確に意識でき、それがすべての職員の意識となるように切に願う。“誘導的にならないように”と仰っていましたがだいぶ自分にはスキルが必要と感じました。

50 歳代/施設職員/奈良県

アドボカシーという言葉は、今まだ世間的には知られていないと思われますが、「すべての国民が担い手」ということにとっても納得させられました。

家庭でも地域でも大人に子どもの権利について知ってもらうことから始めていけたらと思います。ありがとうございました。

60 歳以上/大阪府

盛り沢山な内容でとてもためになりました。ただ、プリントを読むだけ、しかも早口、ぼそぼそぐちゃぐちゃ……非常に聞き取りにくかった。プリントはプリントで配り、ポイントだけを詳しく説明する形の方がいいのではないかと思います。先生の元々の話し方のせいもあるのだとは思いますが…

・子どもが望んでも会わせないのかという話

司会の方は、親と児相の話し合いなどの関係で、児相が28条審判を考えているような場合は合わせられないというようなことを仰ったように思いますが、子どもの権利、意見と言いながら、それは児相の悪しき慣行ではないのでしょうか。親に会えない、家に帰れない子どもへの影響も考えていただきたい。

40 歳代/統括支援員/奈良県

現在統括支援員として、子どもが安心して過ごせるように地域資源（子ども食堂等）との連携や、子どもの居場所づくりを検討しているところです。本日は、地域で子ども、家庭を支えていくための制度の変遷や実践を学ばせていただきました。

特に感じたことは、「みんながアドボケイトであること」です。子どもの居場所づくりでは学生と一緒に取り組んでいこうと思っていますが、職員だけでなく、地域の支援者や学生にもアドボケイトの意識と一緒に高めていけるようにしていきたいと思います。（支援者向けの権利教育の啓発用の資料はありますか？）

権利擁護の意識について、学校現場の意識はいかがなものでしょうか？

50 歳代/児童福祉司/大阪府

反抗期は自己主張期との認識で対応するという新しい視点をいただきました。

50 歳代/心理士/大阪府

丁寧に話を聞くことの大切さを改めて学べました。現場においては、話の聞き方を分かっているスタッフが行うべきですが、家庭など日常の中で、子どもと関わる大人が少し話を聞く時間を見つけていくことが今の日本には必要なのかなと感じました。

60 歳以上/SSW/兵庫県

相澤先生の論文を拝見させていただいていました。実際に話を伺うことができ、アドボカシー全般の考え方をすることができました。

子どもの話をすることの大切さを改めて感じました。

セルフアドボカシーと支える支援員も大切であり、マイクのような存在であることは専門フォーマルアドボカシーと同様に難しさも感じました。今回の内容を職場で活かしてアドボケイト活動に取り組んでいきたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

50 歳代/弁護士/大阪府

人間関係の基本的なことが、普通にできない社会になっていることの原因は何かを考えさせられました。各種関係機関の連携と被虐待児童と加虐親更生の連携のための取り組みの必要性を感じました。

50 歳代/相談員/奈良県

意見表明支援事業であるアドボカシー活動について学ぶことができた。子どもと職員との関係性の構築の中に子どもと職員があらまの自分を素直にさらけ出し本音で話し合える関係を子どもたちは望んでいる事が分かった。1人の人、大人としての姿勢が問われていることがよくわかった。

安心して日常会話がしやすくなる環境づくりとして、支援者が意見表明できる風土、文化を育てることについて、児相はトップダウンで物事を決めることがあり、自分の意見聞いてもらえない、意見を話せない環境にあります。

今まで当たり前のように行ってきた支援の方法を見直していく必要があると思いました。すべての国民によるアドボカシー環境づくりに共感しました。何をすべきか、それは支援者が主体で決めることが多かったので、このアドボカシー活動が日本の中で広まって行けばよいかと思いました。児童が少ない中で残りの大人たちが子どもたちの為に何を出来るか、行動すべきか教えるきっかけになったので今日はありがとうございました。参加できてよかったです。

40 歳代/施設職員/大阪府

施設向けの大阪市主催研修（web）は受講しました。当施設も今年度より、実施することになります。漠然とした心的抵抗が施設サイドに存在しているのが現実ですが、「まずは私から」理解、認識を深めて、子ども達の為に取り組んでいくきっかけになれば…と受講しました。アラ探しではない！子どもが持つ権利！子どものセルフアドボカシーの形成、フォーマルアドボカシー、独立アドボカシーの相互補完機能を高めていけるように前向きに取り組んでいきたいと思います。

50 歳代/SSW/大阪府

新たな制度について、詳しく分かっていないところがあったので、分かりやすく学べたと思います。参考資料も見てみたいと思いました。

40 歳代/元児童福祉司/大阪府

自分自身が不完全さを自己開示することの大切さを再認識しました。家庭内でも、大人（保護者）と子どもという関係性よりも、人と人との関係であるということを重要視すると、お互いが幸せになるような感じがしています。

50 歳代/相談員/大阪府

子どもの意見表明について支援者の具体的な対応が見えるお話を聞くことができた。

40 歳代/市町村職員/大阪府

確認が大事ということよくわかりました。仕事で、上司にはちゃんと確認するでしょ？という説明がすぐストンと落ちました。こどもたちにも同じ目線で対応すること学んだ気がします。また、質疑応答でお答えくださった、ファミリーホームに事業を導入する際に苦労されたお話がとても参考になりました。

50 歳代/保育士/大阪府

アドボカシーの基礎を学ぶことができた。自分ができる役割について、自分が置かれている立場で何ができるのかを考えるきっかけになった。個人的に、不登校支援の居場所づくりを昨年からしていて、保護者との意見の違いに、踏み込めずにいることがある。こどもたちの意見をどのように表明したらいいのか、アドボケイトでもないこの状況での支援の継続について悩んでいる。しかし、この講演会で、専門家

でなくてもできる、という部分をしり、力になった。

60 歳以上 SSW/京都府

先生のお話を伺ってもやはり難しそうだ、ただ最後の質疑応答のところで言われたようにベテランの方との二人一組で実際を見習いのようにできればかなりハードルは下がりそうである。

在宅時の支援がほとんどなので教えていただいた事を参考にしたい、ほぼ間接支援ではあるが、直接支援の時に大変参考になるお話でした。とても充実した内容でした。ありがとうございました。

30 歳代/保育士

とても盛りだくさんの内容でとても勉強になりました。特に印象に残った事として、独立アドボカシーの比喻表現でした。独立アドボカシーは子どもの主張や発言そのものを的確にキャッチして明確に伝達する為のマイクのような役割ということでした。子どもに不利益が生じないように時にはつい誘導したくなりますが、子ども自身の想いや考えを的確に伝達することがまずは大切だと実感しました。

また、子どもが育つには居場所がとても大切だと学びました。家庭や学校だけでなく第三の居場所を確保できるように大人たちがサポートしていくために保健師の立場から何ができるかを今後考えていきたいと思いました。子どもと関わる際にはまず支援者が自分の不完全さを開示することで子どもと一緒に成長することが大切だと思いました。

30 歳代/大阪府

本日はとても貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

今日伺ったお話は仕事においても私生活においてもとても重要で心に刻むべき内容ばかりでした。

保育に関わるものとして、保育士の役割としても大切に感じました。虐待が疑われる場面で、子どもたちが何を求めているのか、保育者として何をすべきなのかとても難しいです。本日学んだセルフアドボカシーを育むような日々の関わり、子ども達の日常の様子をよく観察することや、子どもと保育者の信頼関係を育成を通して、自分の想いを素直に言える子ども達にとって自分は大切にされる存在なのだと思う関わりを大切にしていきたいと思っています。保育者がフォーマルアドボカシーのような存在であるよう、会社では研修にも取り入れたいと思っています。